

平成 25 年 版

消 防 年 報



平 戸 市 消 防 本 部

表紙写真説明

名称 平戸オランダ商館

1639年の巨大な石造倉庫を復元し、平戸オランダ商館として2011年9月20日からオープンしています。館内には平戸とオランダの交流の歴史や大航海時代のオランダなどの資料が多数展示されています。

平戸市民憲章

豊かな自然と歴史の中にはぐくまれ、伝統文化と歴史的遺産を大切にし、勤労を愛してきたわたくしたち平戸市民は、郷土の限りない発展と平和を願い、大きな誇りを持ってこの憲章を定めます。

1. かけがえのない自然を愛し、美しいまちをつくりましょう。
1. きまりを守り、力を合わせ、明るいまちをつくりましょう。
1. 健全な心とからだを育て、元気なまちをつくりましょう。
1. 仕事にはげみ、常に向上心を持ち、豊かなまちをつくりましょう。
1. 教養と文化をたかめ、伸びゆくまちをつくりましょう。

(平成18年5月20日制定)



市の花 平戸つつじ

[ツツジ科ツツジ属]

説明 平戸つつじは平戸原産とされ、全国的にも有名で、大輪種の総称となっています。約350種類以上に分類され、生命力が強く、花が葉を隠さんばかりに華やかな花を咲かせます。庭園や公園などに広く栽培されていてまさに観光都市平戸を象徴するにふさわしい花です。



市の木 マキ

[マキ科マキ属]

説明 平戸城そばの亀岡公園にあるマキ並木は樹齢400年で、昭和29年に県の天然記念物に指定されています。平戸は特にイヌマキがよく生育する土地で、市のいたるところで大木が見られ歴史のまち平戸にふさわしい木です。



市の花木 やぶ椿

[つばき科つばき属]

説明 本市の山野に数多く自生または植栽されて親しまれてきた花木です。また、生垣、庭木防風林、鳥媒花として風致にすぐれた情緒豊かで、歴史あるロマンの島平戸にふさわしい花木です。

はじめに

近年、社会経済のめざましい発展により地域住民のニーズも複雑多様化してまいりました。

こうした社会情勢の中、安全で安心して住める地域社会づくりのために努力しているところであり、1本部1署4出張所、職員数77名で、消防防災行政を担っております。

このような中、市民の消防に対する期待と信頼に的確に応えるため、救急救命士の養成等救急業務の高度化を図り、医療機関との連携、市民に対する応急手当の普及、救助業務の充実、消防防災施設の充実強化、並びに火災予防の啓発に努めてまいります。

この年報は、平戸市消防本部における消防の現勢及び平成24年中の消防業務全般について収録し、今後の消防行政に資するとともに消防事情を紹介するため編集したものです。

なお、この編集資料は暦年で、予算関係が伴うものについては会計年度で収録し、必要により収録期日を明示しています。

平成25年8月

平戸市消防本部

目 次

市勢

位置図	1
地勢	2
消防沿革の概要	3～14
消防機構	15
本部・署・出張所の所在地	16
現有消防力	17～19
歴代消防長	20
歴代消防署長	20

総務

事務分担表	21
消防予算の概要（歳出）	22
階級別職員配置状況	23
職員の研修状況	23
階級別職員年齢表	24
免許等取得状況	25
消防特殊器具保有状況	26
常備消防車両配置状況	27

予防

防火対象物現況表	28
中高層建築物等（3階以上）の現況表	29
建築同意事務処理状況	29
防火対象物定期点検・特例認定現況表	29
消防用設備等設置状況	30
火災予防指導実施状況	31
各種届出事務処理状況	31
修学旅行に伴う宿泊施設の照会件数	32
修学旅行受入の年次別推移（過去5年間）	32
防火クラブの結成状況	33
危険物施設及び立入検査状況	34
危険物施設構成比	34
規模別危険物施設数	35
規模別危険物施設構成比	35
危険物関係各種事務処理状況	36
危険物手数料収入額調（平成24年度税外収入）	36

警防 車両配備・通信指令・火災

消防車両等配置状況	37
消防通信	38
火災出場指令連絡表	39
火災の概要	40
火災種別・損害額年次比較表	41
署所別火災発生状況表	42
種別別火災発生状況	43
月別火災発生状況	44
時間帯別・管内別発生件数及び損害額	45
火災覚知別件数	45
出火原因別火災発生件数	46
火災発生件数（5ヶ年間）	47
管内別火災発生件数（5ヶ年間）	47
年別・曜日別火災発生件数（5ヶ年間）	48
年間損害額（5ヶ年間）	48

警防 救急・救助

救急の概要	49
署所別出場状況	50
事故種別出場状況	50
管内事故種別活動状況	50
覚知別出場状況	51
傷病程度別搬送状況	51
時間別出場状況	51
住所別搬送状況	52
転送状況	52
事故種別・年齢別搬送状況	52
曜日・月別出場状況	53
曜日・月別搬送人員状況	53
日別出場状況	54
年別救急出場の推移（5ヶ年間）	55
医療機関別搬送状況	56
救急隊員の行った応急処置状況	57
救急隊員の行った現場応急処置状況	57
住民に対する応急手当普及啓発活動の実施状況（過去5年間）	58
修了証（普通・上級救命講習）交付状況（過去5年間）	58
救助出場状況	59
救助出場車両状況	59

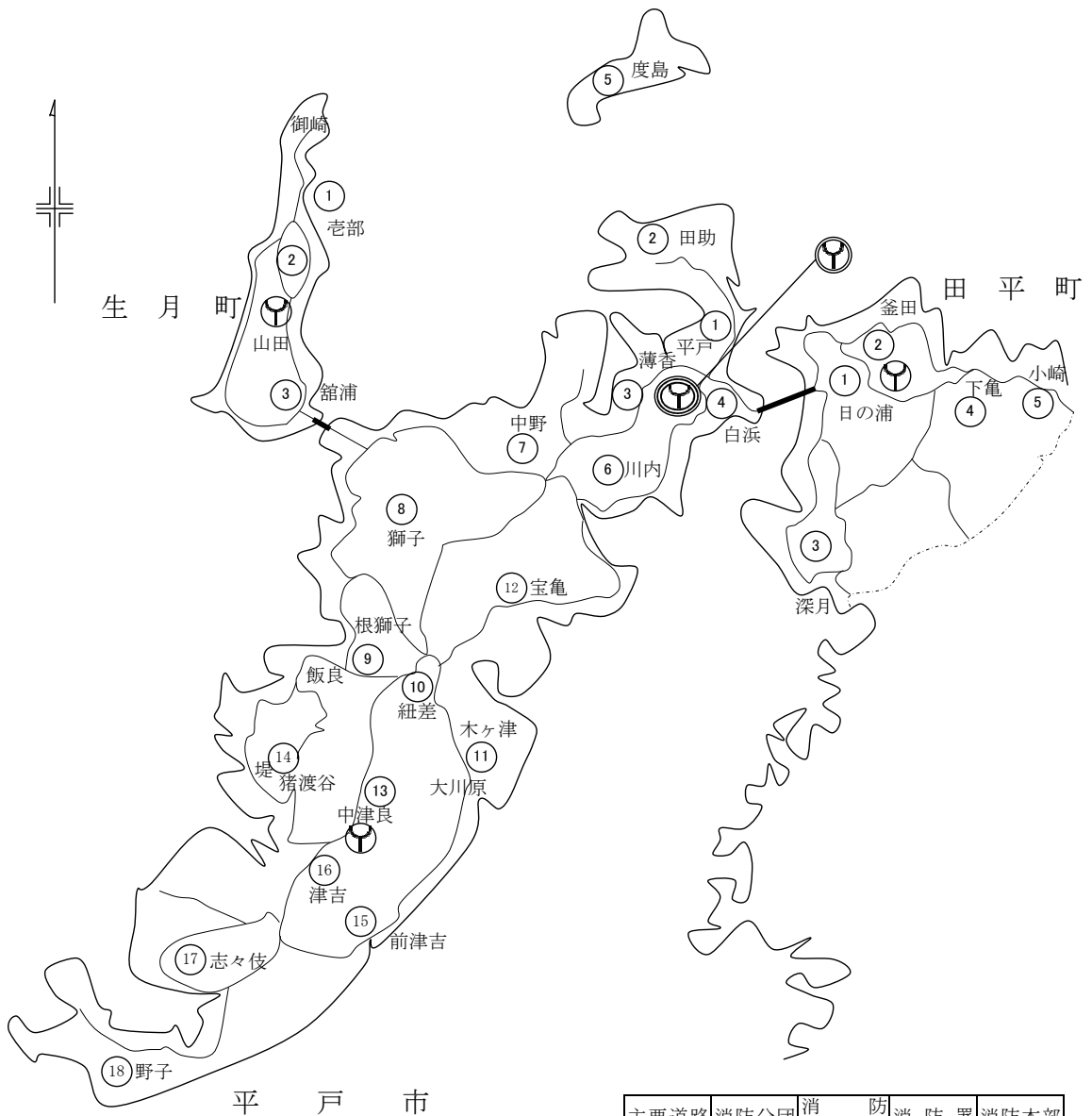
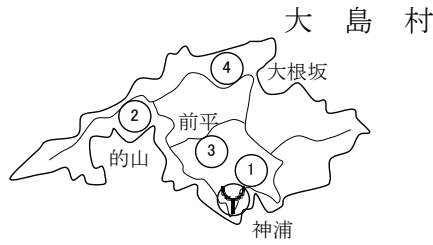
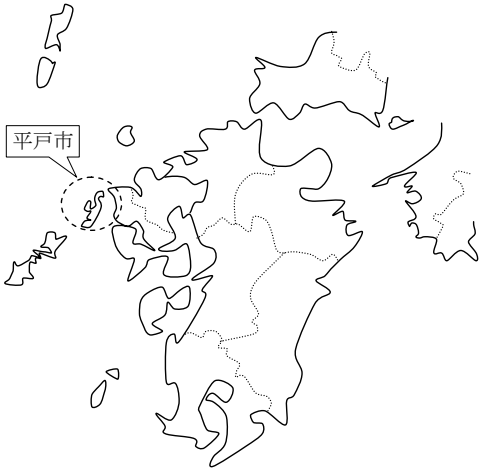
消防団

消防団本部所在地	60
歴代消防団長	60
現有消防力	60
消防団人員配置表	61
消防団編成表	62
消防団車両配置状況	63～64
消防団員の報酬及び費用弁償	65
消防団員退職報償金支給額表	65
消防団員年齢別及び階級別団員数	66
消防団員在職年数状況	66
分団別防火水槽・消火栓設置状況	67
消防格納庫建築状況	68～69

位置図

平成24年10月1日現在

面積	235.66Km ²		
本部位置	東経	129°	33'02"
	北緯	33°	21'32"



凡例	主要道路	消防分団	消防出張所	消防署	消防本部



地 勢

本市は、九州の西、長崎県の北西端に位置し、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土北西部の沿岸部に位置する田平と周辺の多数の島々で構成されています。

平戸島は、田平と平戸大橋により、生月島は、平戸島と生月大橋で結ばれています。大島、度島、高島は離島であり、交通手段が船舶のみです。

面積は 235.66km² で、山は、安満岳の 514.3m が最も高く、河川は、総じて短小で、神曾根川の 4.6 km が最長です。平坦地は少なく、起伏の多い地形で、海岸線は各所に岬が突出し、断崖などの自然景観が美しく、川内峠や塩俵断崖など本市の約 20% が西海国立公園に指定されています。

また、入り組んだ海岸線を持っているため、湾が多く、地方港湾は平戸港をはじめ 6 港、56 条港湾が紐差港をはじめ 7 港、漁港は大小 33 港にも及んでおり、日本有数の漁港数を有しています。

気候は、周囲のほとんどが海に囲まれており、対馬暖流と季節風の影響を受け、海洋性の温暖な気候で、通年の平均気温は 16～17℃、年間平均降水量は 2,500 mm 前後です。

平成 25 年 4 月 1 日現在

世 帯 数	1 4, 3 7 1 世帯
人 口	3 4, 8 2 2 人

消 防 沿 革 の 概 要

年 月	事 項
明治10年 4月	平戸に私設消防組が柄長組として発足
明治20年 4月	火消組と改名される。
明治27年 8月	私設平戸町消防組
明治44年 6月	私設平戸村田助浦消防組
大正 8年 (推)	私設上下中津良消防組
	私設猪渡谷消防組
	私設堤消防組
大正 9年 4月	私設平戸村薄香浦消防組
大正 9年 7月	私設宝亀消防組
	私設木ヶ津消防組
大正10年 2月	私設津吉消防組
	私設古田消防組
大正11年 5月	私設紐差消防組
大正14年 7月	私設川内浦消防組
大正14年 (推)	私設度島消防組
昭和 2年 1月	私設平戸町白浜消防組
不詳	私設獅子消防組
不詳	私設根獅子消防組
不詳	私設志々伎岡消防組
昭和 5年 1月	公設中野村消防組発足
	6月 公設紐差村消防組発足
昭和 7年 6月	公設平戸町消防組発足
(推)	公設津吉村消防組発足
(推)	公設志々伎村消防組発足
(推)	公設中津良村消防組発足
昭和 9年 5月	公設獅子村消防組発足
昭和14年 4月	上記各消防組は警防団令施行により各警防団となり防空の任務が加わった。
昭和22年10月	勅令消防団施行により警防団を解団し各消防団となった。
昭和23年 3月	消防組織法の施行により、勅令消防団を廃止
昭和30年 1月	1町6ヶ村合併平戸市となった。
	市制施行により各消防団の町村名を除き平戸市を冠称した。
昭和31年 8月	平戸市消防団発足
昭和38年 1月	平戸市消防団 1団28ヶ分団 1,134名となる。
昭和46年 4月	平戸市消防本部、消防署設置
	初代消防長 橋口善治 就任 (署長兼務)
	消防職員 30名採用
	消防学校第9期初任科 13名入校
	水槽付ポンプ自動車 1台購入
	救急車1台日本自動車工業会より寄贈を受ける。
	6月 分団統合により19ヶ分団 755名となる。
	8月 消防学校第10期 初任科 12名入校
	12月 消防ポンプ自動車 1台購入
	小型動力ポンプ付積載車 1台購入
	防火水槽 5基新設
昭和47年 2月	消防本部、消防署庁舎落成、移転
3月	消防大学校 (上幹2) 1名入校

年 月	事 項
昭和47年 4月	消防長兼消防署長 橋口善治 転任 消防長兼消防署長 下川 勇 就任 消防本部指令車購入 消防通信一斉指令台設置 無線電話設置
10月	消防副士長 6名 昇任 防火水槽 7基新設 小型動力ポンプ 4台購入 消防団へ配置
昭和48年 4月	消防士長 3名 昇任 消防副士長 3名 昇任 消防工具車 1台購入 小型動力ポンプ 3台購入 消防団へ配置 ヘリポート新設(南部 鮎川町)
昭和49年 3月	生月出張所設置のため生月消防事務委託について市議会議決
4月	救急車1台 日本船舶振興会より寄贈を受ける。
11月	消防学校第19期初任科 10名入校
12月	屈折梯子付消防ポンプ自動車 1台購入
昭和50年 3月	防火水槽 6基新設 ヘリポート新設(度島町) 小型動力ポンプ 2台購入 消防団へ配置
4月	消防職員 10名採用 平戸市消防署生月出張所開所
5月	消防長兼消防署長 下川勇 退職
6月	消防長事務取扱 平戸市助役 酒井勝一 就任 消防署長 三輪宇三郎 昇任
10月	消防士長 1名 昇任 消防副士長 2名 昇任 小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置 消防ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置 防火水槽 5基新設
昭和51年 9月	小型動力ポンプ 2台購入 消防団へ配置 防火水槽 6基新設 屈折梯子付消防ポンプ自動車、工具車、広報車へ無線電話設置
10月	消防長事務取扱 平戸市助役 酒井勝一 退任 消防長 三輪宇三郎 就任(署長兼務)
昭和52年 9月	防火水槽 6基新設 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置 消防格納庫 2棟新設(野子、飯良)
12月	消防士長 3名 昇任 消防副士長 5名 昇任
昭和53年 1月	消防格納庫 1棟新設(幸の浦)
3月	木引田町味のタウン建物大火災16世帯全焼
6月	豪雨により大久保町地すべり災害発生(死者4名)
9月	防火水槽 6基新設 小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置
昭和54年 1月	消防大学校(救急科)1名入校
2月	小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
7月	防火管理者講習会開催 防火水槽 7基新設

年	月	事	項	
昭和54年	8月	消防格納庫 1棟新設 (魚の棚)		
	9月	小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置 消防格納庫 2棟新設 (田助、木場) 消防ポンプ自動車 2台購入 消防団へ配置 同自動車へ無線電話設置		
昭和55年	1月	消防大学校 (救急科) 1名入校 消防格納庫 2棟新設 (敷佐、白浜)		
	3月	消防長兼消防署長 三輪宇三郎 退職		
	4月	消防長兼消防署長 西山忠義 就任 消防士長 2名 昇任 消防副士長 5名 昇任		
	5月	消防職員 1名採用		
	6月	分団編成替えにより21ヶ分団とする。		
	8月	小型動力ポンプ付積載車 2台購入 消防団へ配置 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 (本署) 崎方公園地すべり災害発生 災害対策本部設置 消防機関警戒態勢をとる。		
	10月	防火水槽 4基新設		
	12月	消防団総合演習 (1~3日) 指令車 1台購入 (本部)		
	昭和56年	3月	消防格納庫 3棟新設 (飯盛、薄香、川内) 防火水槽 6基新設	
		4月	消防副士長 4名 昇任	
8月		小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置		
10月		防火水槽 6基新設 救急車 1台日本消防協会より寄贈を受ける。 車庫増設 (庁舎横)		
11月		消防団総合演習 (26~27日)		
昭和57年	1月	小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置		
	2月	消防格納庫 2棟新設 (下中津良、猪渡谷)		
	3月	防火水槽 6基新設		
	4月	県下消防職員意見発表会 (平戸)		
	6月	屈折梯子付消防ポンプ自動車オーバーホール入り (大阪森田ポンプ)		
	7月	防火管理者講習会 (14・15日) 九州地区消防救助技術指導会 2名出場 (長崎市)		
	8月	小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置		
	9月	消防ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置		
	10月	消防団員の定員条例改正に伴い670人となる。		
	11月	小型動力ポンプ 1台日本損害保険協会より寄贈を受ける。		
昭和58年	12月	防火水槽 2基新設		
	1月	防火水槽 1基新設		
	2月	消防司令補 2名 昇任 八市正副団長会開催 (平戸) 防火水槽 6基新設		
	3月	消防格納庫 3棟新設 (潮の浦、大川原、宝亀)		
	4月	消防職員 1名採用 消防格納庫 1棟新設 (中野)		
	6月	消防職員 1名採用		

年 月	事 項	
昭和58年	6月 消防団長 木下吉太郎 退団	
	7月 消防団長 金子俊男 就任	
	9月 長崎県消防ポンプ操法大会 第16分団出場 消防職員 1名採用	
	10月 消防司令補 1名 昇任 消防副士長 1名 昇任	
	11月	消防相互応援協定訓練実施(平戸)
		小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
		小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
		小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置 消防団連合演習
	12月	工作車 1台購入(本署)
		防火水槽 5基新設
	昭和59年	2月 防火水槽 2基新設
		3月 消防長兼消防署長 西山忠義 退職
4月		消防長事務取扱者 岩崎久幸 就任
		消防署長 山西琢磨 就任 消防職員 12名採用
		消防学校第29期初任科 12名入校 消防士長 3名 昇任
5月 県消防長会警防担当課長会(平戸)		
7月 小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置		
9月		水槽付消防ポンプ自動車 1台購入(中津良出張所)
		平戸市消防署中津良出張所庁舎落成
10月		平戸市消防署中津良出張所開所
		消防司令補 2名 消防士長 2名 昇任
11月		防火水槽 5基新設
	無線電話機(固定、移動)各1台購入	
	防火広報車 1台日本防火協会より寄贈を受ける。	
	消防大学校(上級幹部科)1名入校	
12月 消防団連合演習(27~30日)		
昭和60年	1月 署内対抗消防ポンプ自動車操法大会	
	6月 救急車 1台日本損害保険協会より寄贈を受ける。	
	7月 消防副士長 9名 昇任	
	10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(大分市)
		水槽付消防ポンプ自動車 1台購入(本署) 消防長事務取扱者 岩崎久幸 退任
11月 消防長 山西琢磨 就任(署長兼務) 防火水槽 4基新設		
昭和61年	2月 消防団連合演習(26~28日)	
	5月 防火水槽 1基新設	
	7月	第39回長崎県消防団大会(平戸)
		消防格納庫 1棟新設(大志々伎)
		小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
	8月	長崎県消防長会予防事務研修会(平戸)
九州地区消防救助技術指導会 3名出場(熊本市)		
長崎県消防長会予防担当課長会議(平戸) 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置		

年 月	事 項
昭和61年 9月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
10月	防火水槽 4基新設
11月	防火水槽 1基新設
	救急指令装置I型設置(本署通信室)
12月	消防団連合演習(28・29・12月1日)
昭和62年 2月	防火水槽 2基新設
	小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
	救急車 1台日本自動車工業会より寄贈を受ける。(生月)
	長崎県下消防吏員統一昇任試験(司令補・士長)
4月	消防職員 2名採用
	消防司令補 2名 昇任
	消防士長 4名 昇任
7月	九州地区消防救助技術指導会 5名出場(佐賀市)
	広報車 1台購入
	救急車 1台 日本消防協会より寄贈を受ける。
	防火管理者講習会(4・5日)
9月	台風12号による災害で被害続出
	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
10月	防火水槽 5基新設
	119番の日設定
11月	消防団連合演習
12月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
昭和63年 3月	本署訓練主塔(17m)新設・空気充填所新設
	消防格納庫 1棟新設(前津吉)
	防火水槽 1基新設 消火栓(300mm2口) 1基新設
	消防長兼署長 山西琢磨 退職
4月	消防長兼署長 阿部善次 就任
	救急業務応援協定締結
5月	消防大学校(上級幹部科) 1名入校
	指令車 1台購入(本部)
	レサシアン(成人用) 1具長崎県救急医療財団より寄贈を受ける。
6月	B型肝炎感染防止対策ワクチン接種(全隊員)
7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(鹿児島市)
8月	長崎県下署長会議開催(平戸)
	防火管理者講習会(3・4日)
	小型動力ポンプ・小型動力ポンプ積載車 各1台購入 消防団へ配置
9月	防火水槽 3基新設
	集団事故想定訓練(中部地区)
11月	消防ポンプ自動車(CD-1型) 1台購入(本署)
	本署訓練補助塔(7m)新設
12月	第1回平戸市婦人・幼年防火の集い(文化センター)
昭和64年 1月	消防士長 1名 昇任
平成 元年 3月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
	防火水槽 2基新設 消防格納庫 1棟新設(津吉)
	消防無線通信施設整備工事(屏風岳中継局新設、本署更新、上床更新)
5月	長崎県消防長会総務担当課長会議(平戸)
7月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場(長崎市)
	防火管理者講習会(26・27日)

年 月	事 項
平成 元年 8月	査察車1台日本消防協会共済事業により寄贈を受ける。 小型動力ポンプ・小型動力ポンプ付積載車 各1台購入 消防団へ配置 消防大学校(予防科)1名入校 消防団活性化ソフトボール大会 防火水槽 2基新設
9月	集団事故想定訓練(南部地区) 消防ラッパ隊発足
10月	消防格納庫 1棟新設(度島)
11月	長崎県婦人、幼少年防火の集い(文化センター) 消火栓 3基新設
平成 2年 2月	長崎県下消防吏員統一昇任試験(消防司令補・消防士長) 防火水槽 5基新設(4基は防災まちづくり事業)
3月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置 平戸市消防団へ消防庁長官表彰旗受賞
4月	消防司令 1名 消防司令補 3名 消防士長 5名 消防副士長 3名 昇任 消防職員 1名 採用 消防本部事務室改装
5月	消防大学校警防科 1名入校
6月	消防音楽隊発足 防火管理者講習会(26・27日)
7月	消防監 1名 昇任 小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置
8月	消防団活性化ソフトボール大会
9月	集団事故想定訓練(北部地区) 八市正副団長会(平戸) 消防司令長 1名 昇任
10月	九州地区消防駅伝大会 8名出場(熊本市) 消防大学校救急科 1名入校 消防団拠点施設新築
11月	超短波無線電話器 21台購入
平成 3年 2月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置 小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
3月	防火水槽 6基新設 消防司令 1名 昇任
4月	長崎県下春季消防長会総会(平戸) 消防大学校警防科 1名入校
6月	平戸市総合防災訓練(岩の上町白浜埋立地)
7月	防火管理者講習会(30・31日) 救助資器材購入(本署) 九州地区消防救助技術指導会 3名出場(北九州市)
8月	消防団活性化ソフトボール大会
9月	はしご付消防ポンプ自動車購入(本署へ配置) 消防大学校予防科 1名入校 集団事故想定訓練(生月町)
10月	平戸市消防本部創立20周年式典(平戸文化センター)
11月	第1回自衛消防隊初期消火操法大会
平成 4年 1月	消防士長 4名 昇任
3月	防火水槽 6基新設

年 月	事 項
平成 4年	3月 消防長兼署長 阿部善次 退職
	4月 消防長兼署長 鴨川健次郎 就任
	消防司令 1名 昇任
	消防職員 1名採用
	5月 消防大学校上級幹部科 1名入校
	長崎県総合防災訓練参加 (松浦市)
	7月 防火管理者講習会
	緊急通報システム開通
	九州地区消防救助技術指導会 6名出場 (人吉市)
	9月 軽可搬消防ポンプ 3台配置 (日本消防協会より寄贈)
	集団事故想定訓練 (中部地区)
	署内分隊対抗駅伝大会
平成 5年	10月 小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
	消防ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置
	11月 九州地区消防職員駅伝大会 出場
	12月 消防動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置
	2月 長崎県下消防吏員統一昇任試験 (消防司令補・消防士長)
	3月 防火水槽5基新設・第10分団2部格納庫新設
	4月 消防司令補 1名 消防士長 4名 消防副士長 4名 昇任
	5月 平戸市総合防災訓練 (宝亀町港湾埋立地)
	7月 防火管理者講習会
	九州地区消防救助技術指導会 3名出場 (大分市)
	8月 小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置
	9月 集団事故想定訓練 (南部地区)
署内対抗駅伝大会	
平成 6年	10月 消防大学校予防科 1名入校
	消防士長 3名 昇任
	消防ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置
	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
	11月 応急処置等の範囲拡大に伴う救急資器材購入 (本署)
	九州地区消防職員駅伝大会 出場
	12月 防火水槽 3基新設
	消防司令補 3名 昇任
	防火水槽 2基新設
	3月 消防格納庫 1棟新設 (高越)
	4月 消防職員 2名採用
	消防副士長 6名 昇任
消防大学校救助科 1名入校	
5月 第47回長崎県消防団大会 (平戸)	
7月 防火管理者講習会	
九州地区消防救助技術指導大会 6名出場 (沖縄市)	
応急処置等の範囲拡大に伴う救急資器材購入 (中津良出張所)	
9月 集団事故想定訓練 (北部地区)	
11月	小型動力ポンプ 2台購入 消防団へ配置
	消防ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置
	小型動力ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置
	防火水槽 3基新設
	長崎県消防長会 警防担当課長会議 (平戸)

年 月	事 項
平成 7年 2月	小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置
3月	消防長兼署長 鴨川健次郎 退職
4月	消防長 小西謙持 就任 消防司令長 3名 消防司令 2名 消防司令補 1名 昇任 消防署長 山口和夫 就任
7月	防火管理者講習会 九州地区消防技術指導大会 4名出場 (佐賀市)
8月	平戸市総合防災訓練 (志々伎町港湾埋立地) 小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置
10月	署内分隊対抗駅伝大会 消防ポンプ自動車 1台購入 消防団へ配置 小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
11月	長崎婦人、幼少年防火の集い (文化センター)
平成 8年 2月	防火水槽 2基新設
6月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
7月	防火管理者講習会
8月	救急車1台 日本消防協会より寄贈を受ける。
9月	署内分隊対抗駅伝大会
12月	小型動力ポンプ積載車 (全自動) 1台購入 消防団へ配置
平成 9年 1月	消防大学校予防科 1名入校
3月	消防団緊急伝達システム運用開始 防火水槽 1基新設 消防長 小西謙持 退職
4月	消防長 濱田晴夫 就任
7月	防火管理者講習会 九州地区消防救助技術指導会 1名出場 (佐世保市)
9月	平戸市総合防災訓練 (川内町港湾埋立地)
10月	署内分隊対抗駅伝大会
12月	防火水槽 3基新設
平成10年 3月	救助工作車 1台購入 (本署)
4月	消防職員 2名採用 消防司令補 3名 消防士長 4名 昇任
11月	小型動力ポンプ積載車 3台購入 消防団へ配置
平成11年 1月	消防大学校幹部科 1名入校 救急車 1台購入 (本署)
3月	防火水槽 3基新設 消防長 濱田晴夫 退職
4月	消防長 前田初次 就任 消防司令長 1名 消防司令 2名 昇任 消防団員定数670名を640名に条例改正
7月	消防司令 4名 昇任
10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場 (福岡市)
12月	救急救命士養成所 1名派遣 (北九州市)
平成12年 2月	水槽付消防ポンプ自動車 (II型) 購入 防火水槽 3基新設
3月	消防署長 山口和夫 退職
4月	消防署長 大石嗣男 就任 消防司令長 1名 司令補 3名 士長 4名 昇任

年 月	事 項
平成12年 4月	消防職員 3名採用 救急救命士養成所 1名派遣 (北九州市) 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
5月	消防団員定数640名を625名に条例改正
10月	平戸市総合防災訓練 (旧根獅子小学校跡地)
平成13年 1月	救急救命士養成所 1名派遣 (北九州市)
2月	高規格救急車 1台購入 (本署)
4月	小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置 防火水槽 3基新設 (岩の上町、大久保町、高越町) 消防司令補 2名 昇任
5月	消防団員定数625名を600名に条例改正
6月	指令車 1台購入 (消防本部)
7月	消防大学校火災調査科 1名入校 防火管理者講習会 救急処置用訓練室増設 事務所改修
10月	九州地区消防救助技術指導会 3名出場 (沖縄市)
平成14年 2月	平戸市消防本部創立30周年式典 (平戸文化センター)
3月	小型動力ポンプ付積載車 2台購入 消防団へ配置 消防団拠点施設新築 (紐差) 消防格納庫 1棟新築移転 (高越) 消防格納庫 1棟新築 (早福) 消防団緊急伝達システム増設 (12ヶ所) 防火水槽 3基新設
4月	消防長 前田初次 退職 消防長 松本聖二 就任 副士長 1名 昇任 救急救命士養成所 1名派遣 (北九州市)
7月	消防大学校上級幹部科 1名入校 平戸市総合防災訓練 (大志々伎町垣留地区埋立地) 防火管理者講習会 査察車 1台購入
10月	事務連絡車 1台購入
平成15年 1月	防火水槽 3基新設
2月	水槽付消防ポンプ自動車 (Ⅱ型) 購入 小型動力ポンプ 2台購入 消防団へ配置
3月	小型動力ポンプ積載車 2台購入 消防団へ配置
4月	消防本部の機構改革 3係を3課5係とする。 消防職員 1名採用 消防司令補 4名 消防士長 4名 昇任 救急救命士養成所 1名派遣 (北九州市)
9月	耐震性貯水槽 3基新設 (下中野町、大久保町、獅子町)
10月	副士長 1名 昇任
11月	消防ポンプ自動車 (CD-I型) 購入
平成16年 2月	小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置
3月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置 耐震性貯水槽 1基新設 (前津吉町) 消防署長 大石嗣男 退職
4月	消防署長 前田繁 就任

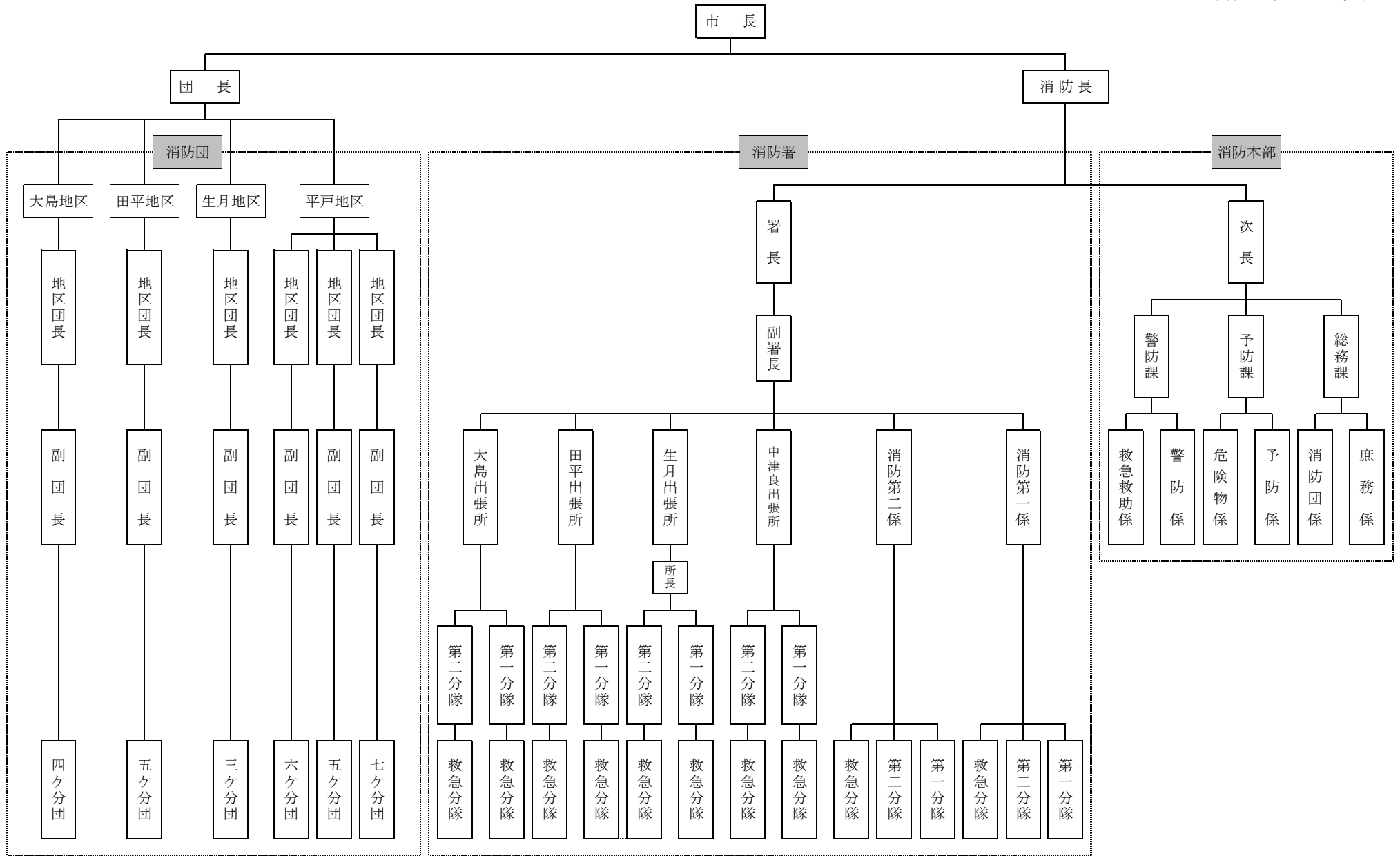
年 月	事 項
平成16年 4月	消防司令長 1名 消防司令 3名 消防司令補 6名 消防士長 4名 消防副士長 2名 昇任 消防職員 1名採用
6月	平戸市総合防災訓練(川内町港湾埋立地)
7月	九州地区消防救助技術指導会 4名出場(国分市)
9月	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型) 購入 小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
10月	救急救命士養成所 1名派遣(北九州市)
10月	消防ポンプ自動車(CD-I型) 1台購入 消防団へ配置 耐震性貯水槽 3基新設(水垂町、古江町、飯良町)
平成17年 3月	耐震性貯水槽 1基新設(大川原町) 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置
4月	消防長 松本聖二 退職 消防長 松尾茂廣 就任 消防司令長 1名 昇任 消防職員 1名採用
7月	九州地区消防救助技術指導会 4名出場(長崎市) 全国消防救助技術大会 3名出場(さいたま市)
9月	小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
10月	新平戸市誕生 1市2町1村合併(旧平戸市、生月町、田平町、大島村) 平戸市消防団 定数1,079名 34ヶ分団 田平町消防事務委託(松浦地区消防本部) 救急救命士養成所 1名派遣(北九州市) 消防ポンプ自動車(CD-I型) 1台購入 消防団へ配置 耐震性貯水槽 3基新設(度島町、宝亀町、深川町)
平成18年 2月	耐震性貯水槽 1基新設(生月町館浦)
3月	耐震性貯水槽 1基新設(大川原町) 小型動力ポンプ付積載車 2台購入 消防団へ配置 署長 前田繁 退職
4月	次長兼署長 谷田美幸 就任 消防司令長 1名 消防司令 1名 消防司令補 1名 消防副士長 1名 昇任 消防職員 9名採用
8月	全国消防救助技術大会 3名出場(札幌市)
10月	署長 高本健治 就任 消防司令補 2名 消防副士長 1名 昇任 耐震性貯水槽 4基新設(大久保町、大川原町、根獅子町、生月町山田免)
12月	消防格納庫 1棟新築(春日) 小型動力ポンプ 3台購入 消防団へ配置
平成19年 3月	消防ポンプ自動車(CD-I型) 1台購入 消防団へ配置 小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置
4月	松浦地区消防組合消防本部から田平出張所が平戸市消防本部へ移管 (移行者8名) 警防課に救急救助係を新設し、3課6係とする。 消防職員 7名採用
5月	高規格救急車 1台購入(中津良)
8月	全国消防救助技術大会 2名出場(東京都)
9月	消防職員 2名採用

年 月	事 項
平成19年 9月	はしご付消防自動車 1台購入(本署)
10月	平戸市消防署大島出張所開所 水槽付消防ポンプ自動車CD-I型1台、救急車(2B)1台(大島) 女性消防団員12名入団(本部付) 第18回全国女性消防操法大会(平戸市女性消防隊7名出場)
11月	高規格救急車 1台購入(生月) 耐震性貯水槽 4基新設(明の川内町、朶の原町、草積町、田平町野田)
12月	消火栓新設 5基(田平町下里3基、釜田、日の浦)
平成20年 2月	小型動力ポンプ 2台購入 消防団へ配置
3月	小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置 消防ポンプ自動車CD-I型 1台購入 消防団へ配置 消防格納庫 1棟新築(薄香)
4月	署長 高本健治 退職 署長 神田篤政 就任 消防司令 1名 消防士長 3名 消防副士長 4名 昇任 消防職員 1名採用
6月	平戸市総合防災訓練(中部市民運動場)
9月	消防職員 3名採用 耐震性貯水槽 4基新設(鏡川町、大川原町、敷佐町、大島町前平)
10月	消火栓 1基新設(田平地区山内免)
12月	小型動力ポンプ 3台購入 消防団へ配置
平成21年 1月	消火栓 1基新設(職人町)
2月	小型動力ポンプ付積載車 3台購入 消防団へ配置
3月	高規格救急車 1台購入(田平) 広報車 1台購入(消防本部) 消防ポンプ自動車CD-I型 1台購入 消防団へ配置 消防格納庫 1棟新築(宮の浦)
4月	消防司令 1名 昇任 消防職員 3名採用 平戸市消防団 分団統合により30ヶ分団
8月	全国消防救助技術大会 3名出場(横浜市)
9月	消防職員 3名採用 耐震性貯水槽 4基新設(川内町、高越町、早福町、生月町南免)
10月	消防司令 1名 昇任 消火栓 2基新設(度島町中部、田平町山内免)
平成22年 1月	小型動力ポンプ 1台購入 消防団へ配置
3月	消火栓 2基新設(度島町本村、田平町下亀免) 小型動力ポンプ付積載車 1台購入 消防団へ配置 小型動力ポンプ積載車 1台購入 消防団へ配置
4月	長崎県防災航空隊へ1名派遣 消防司令 2名 消防司令補 4名 消防士長 3名 消防副士長 4名 昇任 消防職員 3名採用
6月	平戸市総合防災訓練(田平町釜田港)
8月	全国消防救助技術大会 5名出場(京都府)
9月	消防職員 2名採用
12月	消火栓 2基新設(赤松町) 耐震性貯水槽 4基新設(根獅子町、獅子町、鏡川町、田平町小崎免)

年 月	事 項
平成23年2月	消火栓2基新設（堤町小島、猪渡谷町）
3月	小型動力ポンプ付積載車 2台購入 消防団へ配置 高規格救急車 1台購入（消防本部） 消防格納庫 1棟新築（田平町小崎）
3月14日	東日本大震災発生 M9.0（3月11日） 緊急消防援助隊 派遣（消火部隊、後支援部隊 2隊5名） ・活動場所：長崎県隊として久慈市白前・半崎地区、九戸郡野田村を捜索 ・活動期間：派遣期間11日間うち4日間
4月	消防司令1名、消防司令補5名、消防士長3名、消防副士長6名 昇任 消防職員 1名採用
9月	消防職員 2名採用
9月	耐震性貯水槽 1基新設（主師町）
10月	耐震性貯水槽 1基新設（木場町） 消火栓1基新設（生月町）
平成24年3月	消火栓1基新設（田平町） 小型動力ポンプ付積載車1台 消防団へ配置 小型動力ポンプ付積載車1台 消防団へ配置 消防格納庫 1棟新築（1分団3部）
4月	消防長 松尾茂廣 退職 署長 神田篤政 退職 消防長 中村幸一 就任 署長 川村茂実 就任 消防司令1名、消防司令補3名、消防士長3名、消防副士長6名 昇任 消防職員 3名採用
9月	消防職員 7名採用 ひらど消防フェスタ2012開催
10月	耐震性貯水槽 1基新設（辻町） 耐震性貯水槽 1基新設（下中野町） 消防格納庫・詰所 新築（野子）
12月	消火栓1基新設（野子町） 消火栓1基新設（田平町）
3月	小型動力ポンプ付積載車1台 消防団へ配置 小型動力ポンプ付積載車1台 消防団へ配置 小型動力ポンプ付積載車1台 消防団へ配置 消防格納庫・詰所 改築（獅子） 耐震性貯水槽 1基新設（生月町）
平成25年4月	消防司令4名、消防司令補4名、消防士長6名、消防副士長6名 昇任

消 防 機 構

平成25年4月1日現在



本部・署・出張所の所在地

消防庁舎

平成25年4月1日現在

区 分	所 在 地	建設年月	構 造	面 積	
				建築面積	延べ面積
消防本部・消防署	長崎県平戸市戸石川町585 〒 859-5153 Tel. 0950-22-3167 E-mail shobo@city.hirado.lg.jp	昭和47年7月	鉄筋コンクリート造 (2階建)	409.0㎡	690.79㎡
中津良出張所	長崎県平戸市中津良町字田中540の2 〒 859-5504 Tel. 0950-27-1126 E-mail n_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和59年9月	鉄筋コンクリート造 (平屋建)	221.4㎡	221.40㎡
生月出張所	長崎県平戸市生月町山田免2503の4 〒 859-5704 Tel. 0950-53-2580 E-mail i_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和50年4月	鉄骨造 (2階建)	121.0㎡	181.50㎡
田平出張所	長崎県平戸市田平町里免239-1 〒 859-4807 Tel. 0950-57-0440 E-mail t_shobo@city.hirado.lg.jp	昭和49年3月	鉄筋コンクリート造 (平屋建)	143.25㎡	143.25㎡
大島出張所	長崎県平戸市大島村前平1838-1 〒 859-5802 Tel. 0950-55-2040 E-mail o_shobo@city.hirado.lg.jp	平成19年10月	鉄筋コンクリート造 (2階建)	248.08㎡	455.95㎡



現 有 消 防 力

平成25年4月1日現在

消 防 署		基 準	現 有
署 所		1署4所	1署4所
職 員		78名(定数)	77名
水槽付消防ポンプ自動車		4台	4台
消防ポンプ自動車		2台	2台
はしご付消防自動車		1台	1台
救助工作車		1台	1台
救 急 車		6台	6台
指 令 車		1台	1台
広 報 車			1台
査 察 車			1台
事 務 連 絡 車			1台
小 型 動 力 ポ ン プ			2台



車両一覧



水槽付消防ポンプ自動車



消防ポンプ自動車



救助工作車



梯子車



高規格救急自動車



高規格救急自動車



指令車



査察車



広報車



事務連絡車

歴代消防長

代 別	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	橋 口 善 治	自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日	
2 代	下 川 勇	自昭和47年4月1日 至昭和50年5月31日	
3 代	酒 井 勝 一	自昭和50年6月1日 至昭和51年10月6日	事務取扱（市助役）
4 代	三 輪 宇三郎	自昭和51年10月8日 至昭和55年3月31日	
5 代	西 山 忠 義	自昭和55年4月1日 至昭和59年3月31日	
6 代	岩 崎 久 幸	自昭和59年4月1日 至昭和60年10月31日	事務取扱（市助役）
7 代	山 西 琢 磨	自昭和60年11月1日 至昭和63年3月31日	
8 代	阿 部 善 次	自昭和63年4月1日 至平成4年3月31日	
9 代	鴨 川 健次郎	自平成4年4月1日 至平成7年3月31日	
10 代	小 西 謙 持	自平成7年4月1日 至平成9年3月31日	
11 代	濱 田 晴 夫	自平成9年4月1日 至平成11年3月31日	
12 代	前 田 初 次	自平成11年4月1日 至平成14年3月31日	
13 代	松 本 聖 二	自平成14年4月1日 至平成17年3月31日	
14 代	松 尾 茂 廣	自平成17年4月1日 至平成24年3月31日	
15 代	中 村 幸 一	自平成24年4月1日	

歴代消防署長

代 別	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	橋 口 善 治	自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日	
2 代	下 川 勇	自昭和47年4月1日 至昭和50年6月1日	
3 代	三 輪 宇三郎	自昭和50年6月3日 至昭和55年3月31日	
4 代	西 山 忠 義	自昭和55年4月1日 至昭和59年3月31日	
5 代	山 西 琢 磨	自昭和59年4月1日 至昭和63年3月31日	
6 代	阿 部 善 次	自昭和63年4月1日 至平成4年3月31日	
7 代	鴨 川 健次郎	自平成4年4月1日 至平成7年3月31日	
8 代	山 口 和 夫	自平成7年4月1日 至平成12年3月31日	
9 代	大 石 嗣 男	自平成12年4月1日 至平成16年3月31日	
10 代	前 田 繁	自平成16年4月1日 至平成18年3月31日	
11 代	谷 田 美 幸	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	
12 代	高 本 健 治	自平成18年10月1日 至平成20年3月31日	
13 代	神 田 篤 政	自平成20年4月1日 至平成24年3月31日	
14 代	川 村 茂 実	自平成24年4月1日	